

たからづか都市計画マスタープランの見直し等について
ニュースをお届けします！

人口減少や少子高齢化が進展するなか宝塚市が魅力的な街として持続していくための都市づくりを進めるため、令和元年（2019年度）～令和3年度（2021年度）の3年をかけて新しいまちづくり計画の策定（たからづか都市計画マスタープランの見直し、（仮称）宝塚市立地適正化計画の策定）を進めていきます。

Vol. 02では、都市計画審議会の学識経験者で組織する「宝塚市都市計画マスタープラン見直し等のための小委員会」でのご意見をご紹介します。

宝塚市都市計画マスタープラン見直し等のための小委員会を開催しています！

宝塚市都市計画マスタープラン見直し等のための小委員会について

専門的見地等からご意見をいただくため、都市計画審議会の学識経験者7名で組織する「宝塚市都市計画マスタープラン見直し等のための小委員会」を開催しています。

【第1回】

- ・開催日：令和元年（2019年）10月31日 18：00～20：00
- ・場 所：宝塚市役所2階 2-3会議室
- ・議 題：都市計画マスタープラン改定・立地適正化計画策定の基本方針（案）について

【第2回】

- ・開催日：令和元年（2019年）12月25日 14：00～16：00
- ・場 所：宝塚市役所3階 研修室
- ・議 題：都市計画マスタープラン改定・立地適正化計画策定の基本方針（案）について

【第3回】 ※書面開催

- ・開催日：令和2年（2020年）3月2日～23日
- ・議 題：立地適正化計画の誘導方針（案）について

【第4回】 ※予定

- ・開催日：令和2年度（2020年度）
- ・議 題：都市計画マスタープラン骨子（案）・立地適正化計画骨子（案）について

委員会での主な意見



「子育てをしやすいまち」として、子育てする人たちの働き場の確保、子どもを育てる基盤の強化を前面に出してはどうか。

高度医療を担う病院のように、高次都市機能の広域的な分担を考え、うまく補完し合うなど隣接市も視野に入れながら、将来像を考えるべき。



都市農業や都市農地の視点は、全国的に都市緑地法等の改正があり都市農地の位置付けが変わっている。

立地適正化計画の誘導区域の設定は、ハザード区域をどのように考えるかという視点が必要である。



駅を特性により分類するとき、何も無いという駅の特徴があってもよい。そのようなところは他の駅と同じような拠点でなくもよいのではないか。

居住者だけでなく、来街者も多様で魅力的なライフスタイルができることを目指し、都市拠点においては高次都市機能の導入などを企図してはどうか。



Society5.0 へといった社会変革に対応していくための都市機能や「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出につながるよう、注力すべきではないか。

宝塚市の市街地周辺の自然を生かしたライフスタイルの視点も入れてみてはどうか。



「住まい」と「都市機能」を結ぶ移動環境が大きな課題であるため、その点に関する方向性が必要ではないか。